

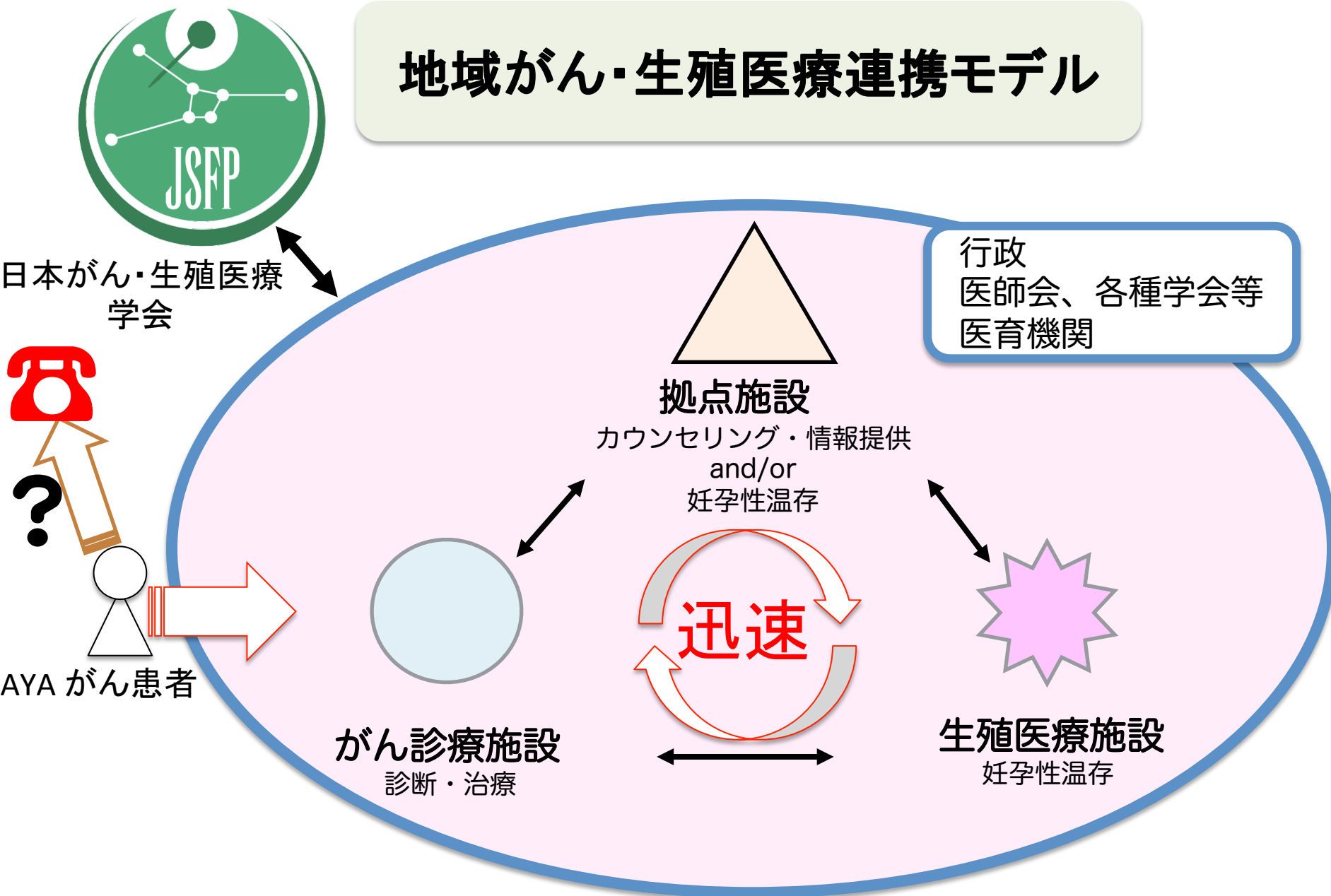
厚生労働科学研究「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」
生殖小班：地域完結型がん・生殖医療連携構築とその全国展開

厚生労働科学研究
「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」
班長：国立名古屋医療センター 堀部敬三先生
班員：23名

AYA世代がん患者の相談支援、心理社会支援、就労支援、教育支援、
家族支援、緩和ケア、妊孕性温存、移行医療、関連診療科や医療
職の連携、療養環境、それぞれの政策提言、ガイドライン作成、情報提供・発信、
および、シンポジウム・講習会等を開催して医療者間のみならず、医療者・支援者・当事者
間の情報共有・普及啓発を行う

生殖小班		
岐阜大学	産科婦人科学	古井辰郎
聖マリアンナ医科大学	産婦人科学	鈴木 直
岐阜大学	産科婦人科学	森重健一郎
岡山大学大学院保健学研究科	生殖医学	中塚幹也
埼玉医科大学総合医療センター	産婦人科学	高井 泰
長崎大学	産科婦人科学	北島道夫
滋賀医科大学	産婦人科学	木村文則

地域完結型がん・生殖医療連携構築とその全国展開



がん・生殖医療とは？

AYA世代がん患者

診断・治療の進歩により
予後の著しい改善
治療による不妊のリスク

生殖医療

生殖補助医療、特に凍結
技術の目覚ましい進歩

出生児
生殖補助医療
による妊娠
約4%(1/27)

うち、73%が
凍結胚移植

(2012年日産婦)

がん治療前の精子、卵子、胚(受精卵)、卵巢組織の凍結

“がんサバイバー”が、子どもをもてる時代に！

患者

疾病への不安
ライフイベントへの不安と期待

治療が影響？
妊娠確率は？
そもそものリスクは？
費用は？

がん診療の現場だけ
では対応不可能

医師

患者への説明責任と対処
治療開始までの時間が
限られている

治療だけでなく、
倫理面や
教育も含む

診療科、施設を超え
た医療連携が必要！

がん治療と生殖医療をトータルでケアする考え方
＝ **Oncofertility** (造語)

Oncofertilityの世の中の流れ

海外

Oncofertility Consortium
2006年から米国Woodruff教授から発信！



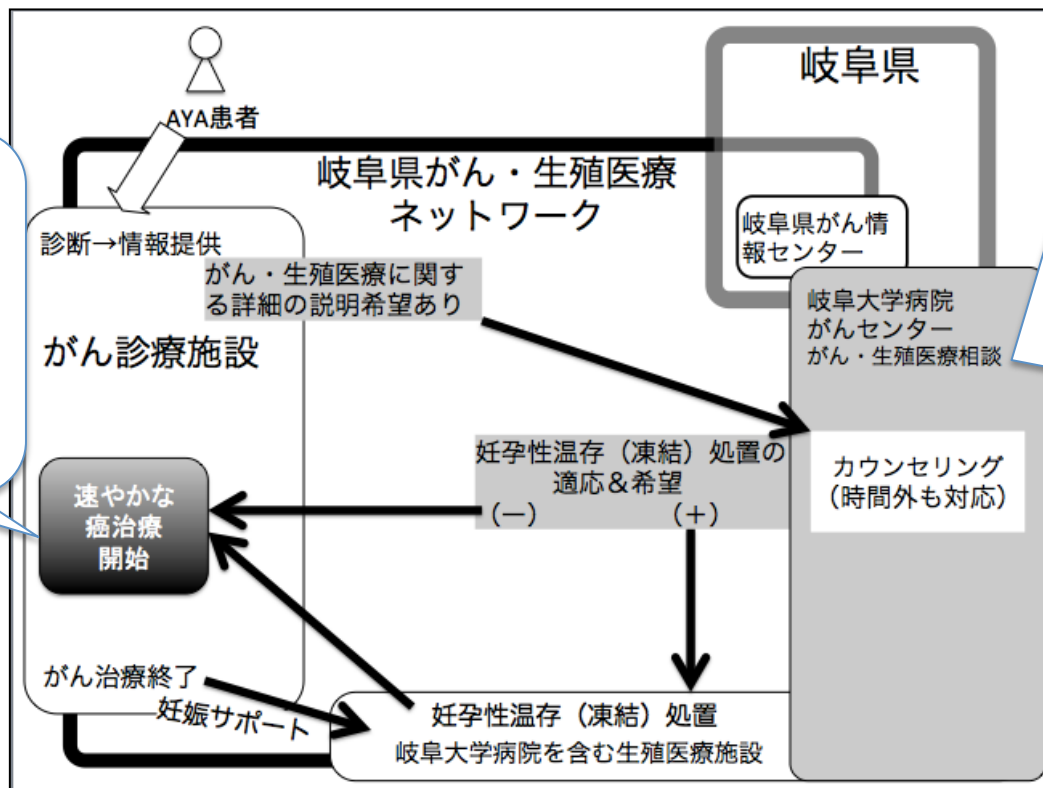
国内

日本がん・生殖医療研究会(JSFP)
2012年に鈴木直教授(聖マ大)が発足！



- ・申請者(古井、森重ら)はJSFPの設立から運営に当たっている
- ・「岐阜モデル」が国内での医療連携の中核的存在
- ・地域医療連携の全国展開が望まれている
- ・JSFPはOncofertility Consortiumのglobal partnerとして既に連携済

「岐阜モデル」とは？



診断から治療
までの限られた
時間の有効活用、自己決定支援、治療遅延を
最短にする

相談実績

立ち上げ2年間で81名
(男性25名、女性56名)

女性相談患者

岐阜大学病院以外 57%
岐阜県外 20%

うち70%は
納得してがん治療を優先
(凍結希望は30%)

岐阜モデルの特徴

- ・岐阜県を中心としたがん・生殖医療の地域医療連携
- ・「岐阜大学がんセンター」2013年から稼働
- ・県内および近隣県のがん診療施設から患者の紹介
- ・がん治療と生殖医療に関する詳細説明と自己決定支援
- ・時間外も対応するカウンセリング
- ・既に中部地区における拠点としての実績あり

本研究の狙いは？

岐阜モデルの経験を活かして、全国的な「がん・生殖医療連携」の構築

JSFP＝日本がん・生殖医療研究会



“ナビゲータ”配置による
情報提供・相談

AYA患者

GPOF s (岐阜大学)

行政
医師会
医育機関

「岐阜モデル」

岐阜大学が
地域拠点施設

「GPOFs＝

岐阜県がん・生殖医療
ネットワーク」

となり、
JSFPと連携

JSFP＝日本がん・生殖医療研究会



「岐阜モデル」の全国展開

地域、人材や施設の有効活用、
実際のニーズを考慮した

▲ 拠点施設および
☎ ナビゲータの適正配置

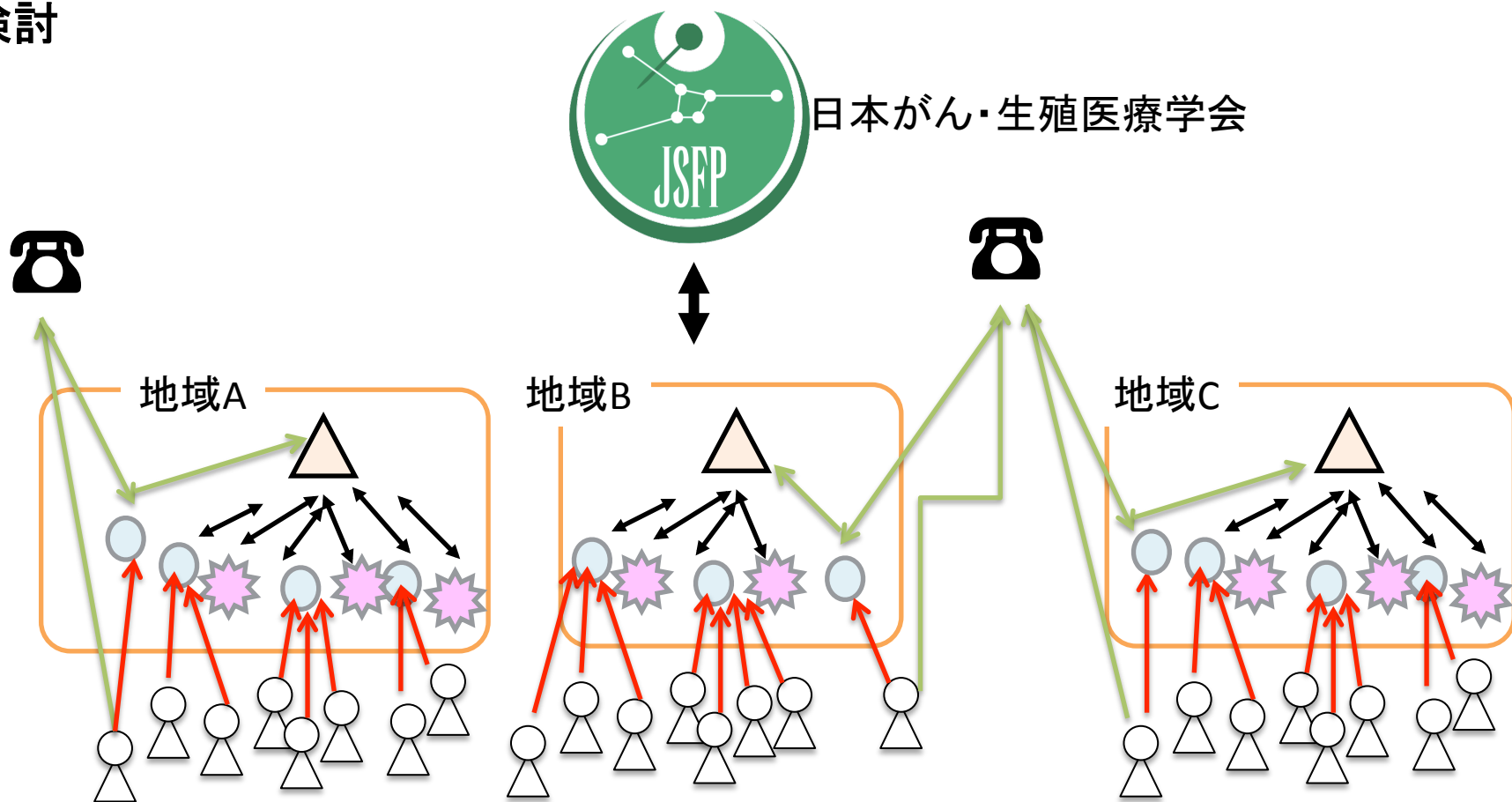
Oncofertility Consortiumとの連携
各種ノウハウ、技術、人材、資料などの共有

患者とがん治療従事者 双方の支援に！！

全国的な「がん・生殖医療連携」の構築

地域、人材や施設の有効活用、実際のニーズを考慮した

- ① 最適な地域連携のあり方
 - ② △ 拠点施設の適正配置と運用方法
 - ③ ☎ ナビゲータの適正配置と運用方法
- の検討



がん・生殖医療の問題点??

- 対応施設、マンパワー（数、職種）、医療連携の不足
- 啓発（医療者・患者）不足
- 医学的エビデンス（カウンセリング、凍結保存）、参考資料・モデルの不足
- 経済的問題（患者、医療施設）
- 長期保存に関わる問題点

研究計画(案)

実態調査

1) 既存地域連携の現状と問題点把握

(岐阜、岡山、長崎、滋賀、福岡、静岡、広島、大分、沖縄)

2) 全国主要がん診療施設における「がん・生殖医療」へのアクセス状況とニーズ 患者への情報提供の実態

診断時から治療後に渡る婦人科、小児科、内分泌内科ケア

がん治療医、看護師の意識調査

3) AYA世代がん患者の実数、妊娠歴、予後、治療内容

人材育成、啓発

1) 全国レベルの研修会(JSFP、日本生殖心理カウンセリング学会)

2) 各地域における勉強会への講師派遣、市民公開講座

資料作成

1) 地域連携構築マニュアル作成

2) 患者および医療従事者向けマニュアルの作成

3) JSFPを通して

難症例の対応、運営上の問題点のシェアおよび検討システム構築による均てん化

まとめ

「岐阜モデル」の全国展開（日本版Oncofertility Consortium）

1. 資料作成

地域医療連携構築マニュアル

2. 施設・人材の有効活用

実態調査を通じて、情報提供拠点施設、
医療従事者、およびナビゲータの適正配置の検討

3. 人材育成

医師、心理士、看護師、薬剤師、ナビゲータ等への教育・啓発
既存学会との連携、拠点施設の有効活用



AYA世代がん患者の妊孕性
および生殖機能に関する諸
問題に対する支援



がん治療の現場における
非専門領域に関する業務
軽減



患者とがん治療医師 双方の支援に！！

参考資料1, 2・・・実態調査についての素案

key word：がん生殖医療の現状とニーズ、意識調査

参考資料3・・・医療体制・支援体制のあり方の検討と提案

key words： ネットワークの適正配置、形態

既存施設や人材のの有効活用

参考資料4・・・研究の流れ

参考資料5・・・JSFPの活動状況（～2014年度）

参考資料6・・・Oncofertility ConsortiumとJSFPの連携

実態調査について I

1) 疾患の把握：連携学会登録(1)・地域がん登録・院内がん登録(2)による情報収集

(1) 産婦人科ART施設（医学的理由による卵子・卵巣凍結対応状況）

(2) 地域・院内がん登録

AYA世代がん患者のがん・生殖医療対象者

がん種、進行期 × 年齢階層別患者数（治療法による妊孕性低下リスクは？）

2) 診療実態の把握：施設調査

・がん診療拠点病院、大学付属病院、日本産科婦人科学会専攻医教育施設

更に拡げるか？、特定の診療科に絞るか？

実際の対象患者数調査（がん種、進行期、年齢、治療方法、子の数・・・）

施設内での生殖機能、妊孕性温存への対応状況（がん治療開始後のフォロー含め）

施設間連携の現状（産婦人科、小児科、内分泌科）

実態調査についてⅡ

3) 患者・家族ニーズの調査

- ・対象・方法は??
- ・診断から治療までのがん治療と生殖機能に関する説明状況
- ・説明を受けた場合、誰から? どのレベルまで?
- ・婦人科等での説明を受けた場合、その契機(自分から?担当医から?)
- ・がん治療後の生殖機能のフォロー体制は?(月経不順の管理、HRT含め)

4) 支援の実態把握

- ・JSFP、各地のネットワークの実態と検証
- ・施設単位の活動調査
- ・各地のネットワークの新規立ち上げ状況とその支援方法?

5) 医療者の意識調査

- ・がん診療施設(がん診療拠点病院、大学付属病院?)における
 - 妊孕性に関する説明・対応の現状
 - がん・生殖連携(施設内外)の必要性の認識
 - アンケートの依頼について
 - 対象科は?
 - 対象者は?(診療科全体、部長?、看護部またはがん看護担当看護師)
 - 回答者の背景(経験年数、専門医等資格なども含めて??)

医療体制・支援体制のあり方

地域での医療連携の形態

1) 既存ネットワーク間の比較

(岐阜、岡山、広島、大分、長崎、福岡、滋賀、沖縄、静岡)

- ・医療関係者や患者さんへのがん生殖医療の情報が伝わる方法
- ・がん治療医から生殖医療医への患者紹介の方法

→地域特性に応じたシステムの提案（大都市型、地方都市型・・・）

2) ネットワークがカバーすべきエリア、規模の検討

地域と中央（JSFP）の連携による効率化の検討

→適正配置を考慮に入れた新規の地域医療連携の全国展開

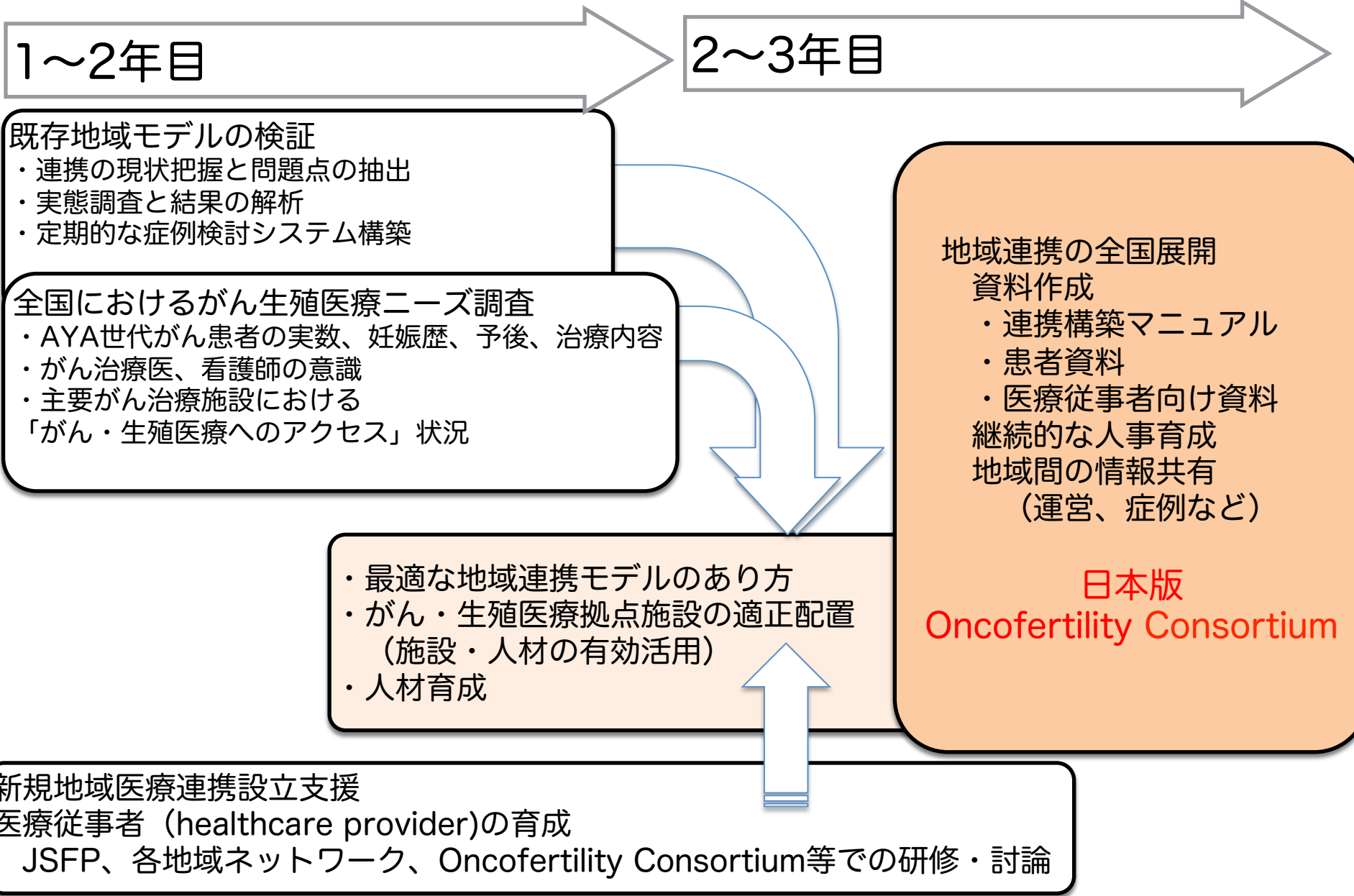
3) 中核となる施設の役割の検討

4) 患者が直接アクセスできるシステムの要否（ネット、電話・・・）

既存のシステムの利用（各地域のがん相談員、不妊相談センターなど）は？

5) 恒久的ながん・生殖医療ネットワークの維持について

研究計画（案）と目標



JSFPの活動状況 (～2014年度)

主催・共催シンポジウム

がんと生殖に関するシンポジウム

～小児・若年がん患者さんの妊孕性温存について考える

2015年2月8日 場所:大阪

～血液疾患患者さんの妊孕性温存対策について考える

2014年2月2日 場所:東京

～妊孕性温存の診療を考える～

2013年4月21日 場所:東京

がん・生殖医療カウンセリングシンポジウム

『がん・生殖医療導入に向けた心理的サポート体制構築
について検討する』

2014年11月30日 場所:東京

がん医療従事者向け研修会

「がんサバイバーシップを科学する～がんと生殖医療～」

2014年10月13日 場所:東京

国立がん研究センターがん対策情報センター

がん情報サービス「多地点テレビカンファレンス」

『がん・生殖医療について』 2013年10月10日

連携団体への支援や連携

地域ネットワーク:沖縄、熊本、大分、福岡、
岡山、兵庫、滋賀、岐阜、静岡

心理:日本生殖医療心理カウンセリング学会

生殖医療:IVF学会、日本生殖医学会、日本授精着床学会、

日本産科婦人科学会、

がん診療:日本がん治療学会、日本乳がん学会等

ホームページ

患者・医療従事者向けの各種情報

- ・がん・生殖医療に関する解説
- ・連携施設の紹介や検索機能
- ・勉強会の案内や報告

資料の作成(協力含む)

- 1) がん・生殖医療- 2013
- 2) 卵巣組織凍結・移植- 2013
- 3) 乳がん患者の妊娠出産と生殖医療に
関する診療の手引き- 2014
- 4) 乳がん治療にあたり将来の出産を
ご希望の患者さんへ
平成24年度厚生労働科学研究費補助金

米国Oncofertility Consortiumとの連携

- ・Global partnerとしてシステム、情報や資料の共有

Oncofertility ConsortiumとJSFPの連携

Global Oncofertility Partners | Oncofertility Consortium | Fertility Preservation | Cancer and Fertility 2015/05/22 19:10



the Oncofertility Consortium
AT NORTHWESTERN UNIVERSITY

Exploring and expanding options for the reproductive future of cancer survivors

CONTACT FERTLINE GIVE NOW PARTNER LOGIN SITEMAP

PARTICIPATE

FEEDS: 

FOLLOW US:    

Global Oncofertility Partners

Establishing global partners is a key to the Oncofertility Consortium's continued success. The Consortium works with reproductive specialists from all over the world, including Brazil, Russia, China, and Portugal, in an effort to better serve children, adolescents and young adults with cancer and other fertility-threatening diseases. Global collaborations not only shed new light on fertility threatening conditions in other countries, but also gives our network insight in dealing with broad cultural issues. It is this interdisciplinary, multicultural and multi-lingual dialogue the Consortium thrives on in order to continue to produce cutting-edge scientific research, which eventually translates to outstanding clinical care across the globe.

Global partners of the Oncofertility Consortium® receive tools and guidance to set up their own consortium. The Administrative Core at Northwestern University serves global partners in an effort to build and expand their existing services and outreach. Available to global partners are all of the materials on our websites. This includes:

- The **iSaveFertility mobile app** (<https://itunes.apple.com/us/app/isavefertility/id436397171?mt=8>) that can be used by physicians when meeting with their patients. (The app includes information for males, females and children and is currently provided in English and Spanish)
- The **myoncofertility** (<http://www.myoncofertility.org>) website for patients, parents and partners.
- Any of the materials on the **main website** (<http://www.oncofertility.northwestern.edu>).
- **Branding materials** (<http://oncofertility.northwestern.edu/branding-materials>) are also available to all global partners.

We encourage global partners to translate these materials and disseminate them to international audiences. Global partners are also encouraged to provide our team with content and links to include on our **website** (oncofertility.northwestern.edu). Making these materials visible to other Oncofertility Consortium® members fosters interaction among groups who are now able to share resources, methodologies, and other experiences in the field. Establishing a strong global network not only drives the collaborative nature of the Consortium, but also helps global partners build their own consortiums and fertility preservation networks.

We encourage interaction with our global partners and encourage all partners to attend our yearly **Oncofertility Consortium® Conference** (<http://oncofertility.northwestern.edu/2014-Conference>). In 2014, we had representatives from Japan, Portugal, Brazil, the Netherlands, India, Korea and Canada present at the meeting. We believe that the annual conference catalyzes the field by bringing together groups that would not otherwise meet in any other venue in order to create the momentum for clinical activities (shared IRBs, shared patient case studies, inclusion of allied health professions), research (sharing results – failures and successes – in ways that hastened work) and patient needs (websites, patient decision tools, **patient navigator**). By facilitating these interactions, we ensure that the global **oncofertility** community is up-to-date on research that can continue to be rapidly translated to the clinic.

To learn more about a specific global partner, including contact information, please click on the links below.

- **ARGENTINA** (<http://oncofertility.northwestern.edu/global-partner-argentina>)
- **AUSTRALIA** (<http://oncofertility.northwestern.edu/global-partner-australia>)
- **AUSTRIA** (<http://oncofertility.northwestern.edu/global-partner-austria>)
- **BELGIUM** (<http://oncofertility.northwestern.edu/global-partner-belgium>)
- **BRAZIL** (<http://oncofertility.northwestern.edu/global-partner-brazil>)
- **CANADA** (<http://oncofertility.northwestern.edu/global-partner-canada>)



グローバルパートナーとして
既に連携済！

- ・ノウハウ、技術、各種資料
の共有、提供
- ・情報交換
- ・人材交流